

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 25 年 3 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

^{めだけ}女岳では北東斜面と南東火口で噴気地熱域が引き続き認められます。
火山性地震は少ない状況で経過し、地殻変動の状況等にも特段の変化は認められません。ただちに火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意して下さい。
平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1～2①）

東北地方整備局が仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置している監視カメラによる観測では、女岳からの噴気の高さは30m以下で噴気活動は低調に経過しました。また、南東火口の地熱域に対応する融雪域が認められます。

・ 地震や微動の発生状況（図2②～③）

火山性地震は少ない状況で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図4）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1※ 秋田駒ヶ岳 女岳からの噴気の状況（3月27日10時56分頃）

- ・ 仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による映像です。
- ・ 実線赤丸で囲んだのが、女岳からの白色噴気で高さは30mです。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成25年4月分）は平成25年5月10日に発表する予定です。

※この資料は、気象庁のデータの他、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

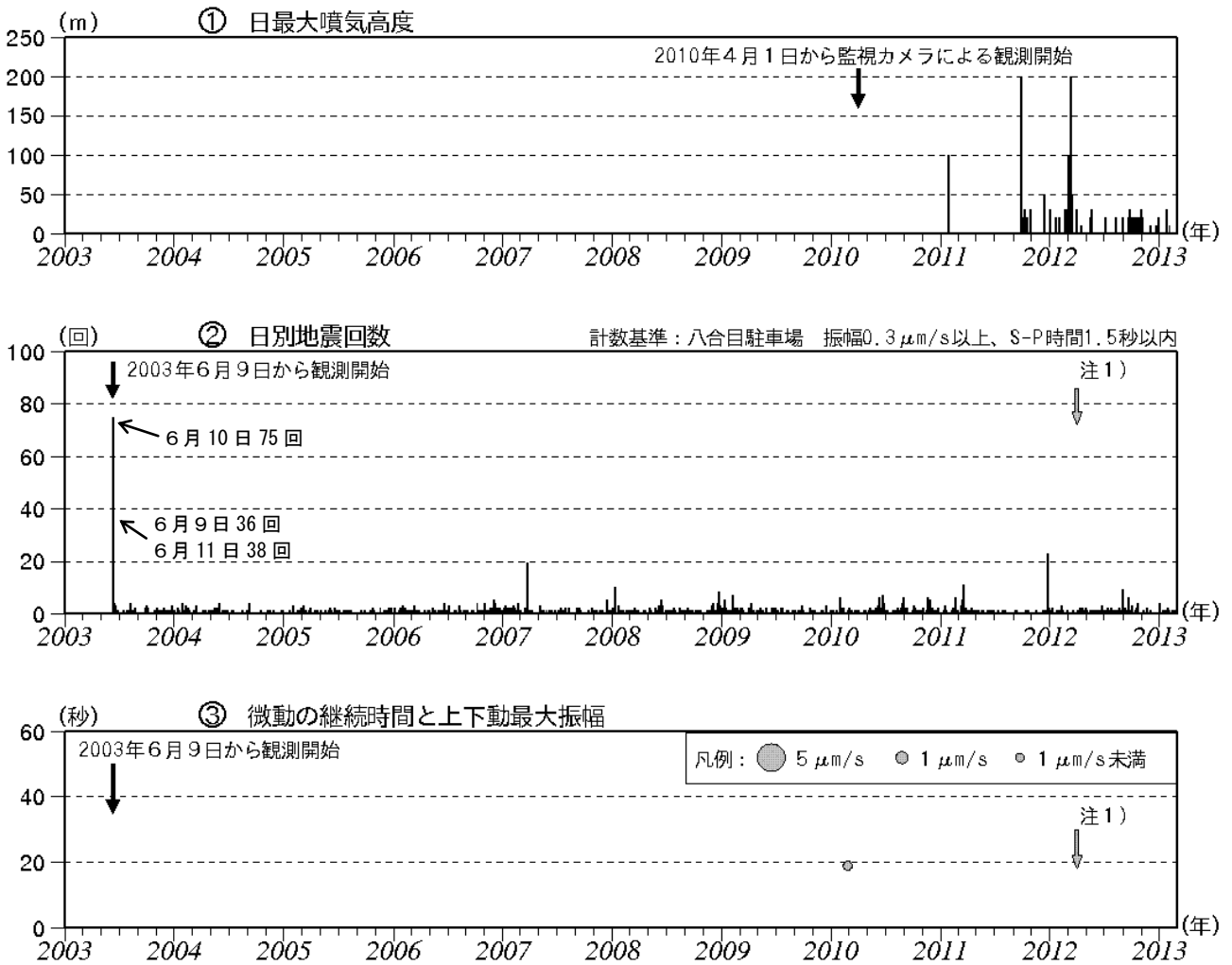


図2※ 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2013年3月）

- ・①熊ノ台（女岳山頂の南西約5 km）及び仙岩峠（女岳山頂の南約5 km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・②③基準観測点の変更は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）。
 観測開始 2003年6月9日～東北大学秋田駒ヶ岳観測点 [振幅 $0.5 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内]
 注1) 2012年4月1日～八合目駐車場 [振幅 $0.3 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内]

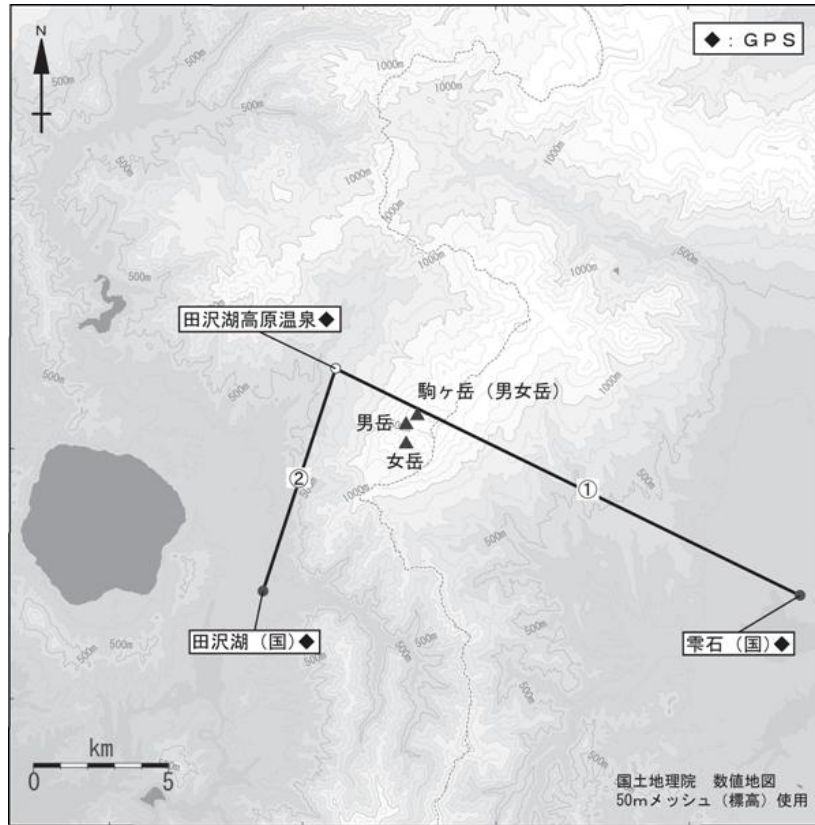


図3 秋田駒ヶ岳 GPS 観測点配置図

・小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院

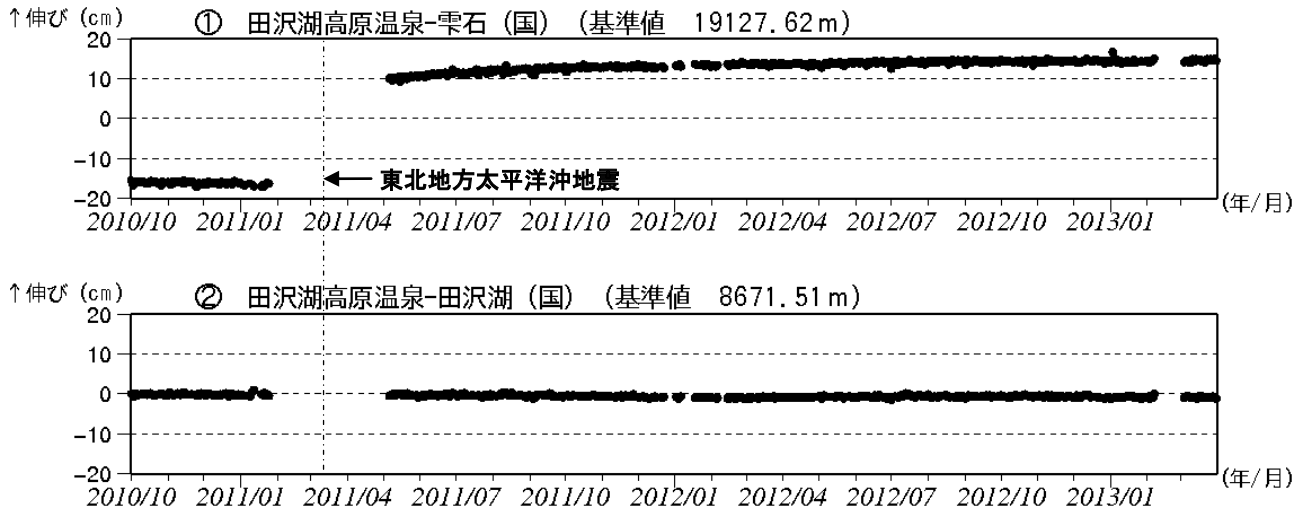


図4※ 秋田駒ヶ岳 GPS 基線長変化図 (2010年10月～2013年3月)

- ・①の基線では、欠測期間中に東北地方太平洋沖地震によるデータの飛びがみられます。また、その後の変動は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・①～②は図3のGPS基線①～②に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。

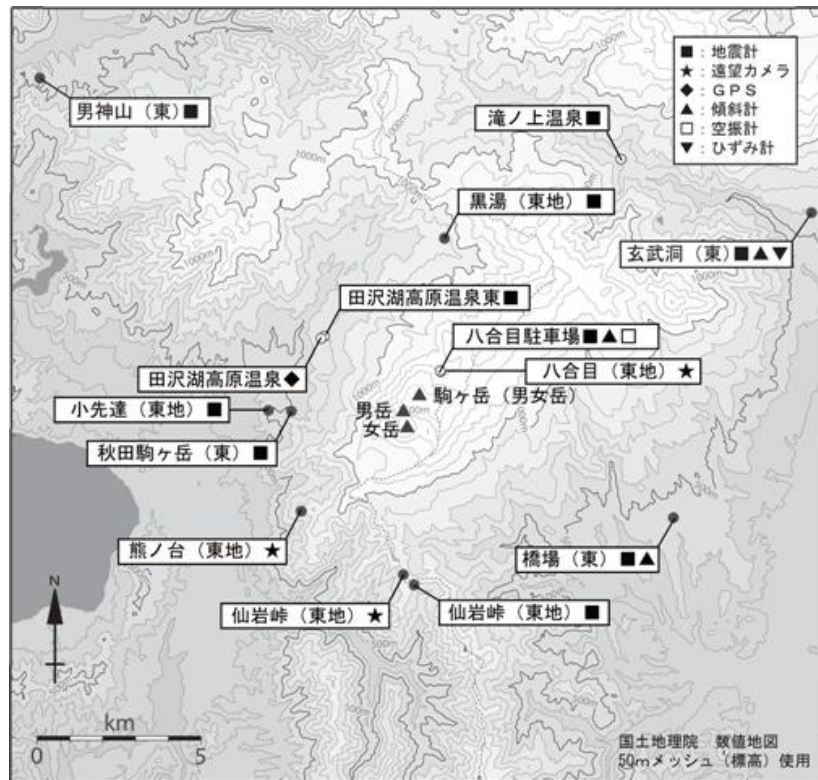


図5 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （東地）：東北地方整備局